

[ゲンロク]

2023
FEB
No.444
2
定価 1100Yen

GENROCK

Next Luxury

新時代ラグジュアリー

[最上級セグメントの勢力圏] BMW 740i vs メルセデス・ベンツ S 580

[電気がもたらす愉悦] メルセデスAMG EQS 53 vs BMW i7

[究極の世界] ロールス・ロイス・スペクター



ポルシェ特選ショップ

メルセデスAMG SL 43 vs ポルシェ911カレラ・カブリオレ
マクラーレン・アルトゥーラでロングツーリング

パガーニ・ユトピア現地取材 / ポルシェ911カレラT初試乗

夜 風に身を預けたくなる時がある。オトナの社会はまもなくぬくことが多いものだ。そんな時はヤケ酒を煽るのもありだが、クルマ好きなら愛車を駆ってあてもなく走ることがあるのかもしれない。ましてやオープントップのスポーツカーなら、なおいっそう、頬に感じる風とともに悩みながら吹き飛ばすことができる気がしてくる。

そんな逃避行のパートナーになってほしいと思えるクルマに出会った。ベントレーのコンチネンタルGTCスピードだ。「ワイルドビーイング」をコンセプトに掲げるベントレーは、本来走りに重点的にフォーカスする

ンドコンセプトが宿る。彼らはそれを壊さないくらいに絶妙なバランスで独自のエッセンスを織り交ぜている。だからいつどのクルマを見ても素直にかっこいいと思えるものばかり。今回のコンチネンタルGTCスピードも例外ではない。

銀色のボディカラーは決して派手すぎず、まるでサヴィルロウで仕立てたスリーピースに身を包む英国紳士のような佇まいを魅せる。オープンにする、ワインレッドのインテリアが露わになり、また違った雰囲気に変化するからおもしろい。オープンにしてもいいなくても、瀟洒たる姿で見るものを圧倒するオーラ

風とともに走る ナイト・ビューティー

スポーツカーにできえ「至福」の要素を満天に乗せする。屋根を開けた時と閉めた時とで愉しみ方を変えることができるコンバーチブルなら、その要素は倍になるのかもしれない。純正のままでも十分に気分が高揚するクルマだが、さらに目利きのプロが手がけたカスタムが加わっているとすれば、究極の一台が仕上がっていることは十分頷ける。

このカスタムを手掛けたのは、抜群のセンスで定評のあるECスペックの井口拓也氏だ。同社のピットには多種多様なハイエンドカーが並ぶこともめずらしくない。それらはすべて、それぞれ異なる世界観とブラ

を添わせる。カスタムのプロがそこに溶け込ませたのは、アメリカン鍛造ホイールメーカーであるADV1のホイールだ。正式にはADV05 MV2アドバンスド・シリーズと呼ばれ、多岐にわたるフォージドホイールを有するADV1の中でも最高峰に位置する。ポリッシュ加工が施されたホイールカラーが相まって、極限まで薄く細く削られた5本のスポークによって描かれる4つの星が、足元で瞬いているようにも見える。格式ある英国車には、正統派のイングリッシュスタイルをもってカスタムするのが常かもしれないが、その概念を気持ちよく壊している。それ

EC.SPEC Bentley Continental GTC Speed



マからも誇らしげに顔を覗かせている。そこから聴こえてくる唯一無二の音色は、官能的な刺激を伴って耳に響いてくるに違いない。アクラポ・マジックでさらに引き立てられた、ベントレーが誇るW型12気筒エンジンのサウンドが、逃避行のBGMになるなんて贅沢だ。

英国と米国では異なるクルマ文化を持つ。その両方を美しく融合させたラグジュアリースポーツカーを見せてもらった。酸いも甘いも知ったオトナの女性にこそ、時にはこんなクルマで夜風を感じながら走ってほしい。最後にそんなことを思った。



テールパイプにはベントレーのロゴと並んでアクラポヴィッチのロゴがお目見えする。スロベニアから送り出される優れた品質と性能をベントレーが認め採用した証なのだろう。

でも決してホイールだけが悪目立ちすることはなく、ボディとホイールそれぞれのストロングポイントを最大限に引き出したコーディネートであるところが匠のセンスだ。加えて、レーシングテクノロジーがふんだんに詰め込まれた鍛造ホイールならば、コンチネンタルGTCスピードが持つ600PSにまで迫るほどの出力性能にだって負けたりはしない。これなら夜風に誘われて思いっきりアクセルを踏み込んだとしても、ベントレーの謳う至福のひとつがたちまち訪れるだろう。

オープントップにすると、己がステアリングを握るクルマの息遣いが聴こえるのもまた、醍醐味だ。ベントレーはコンチネンタルGTCスピードシリーズのオプションとして、アクラポヴィッチ製のエキゾーストシステムを採用しているが、このクル



屋根を開けるとシックなワインレッドの内装が目飛び込んでくる。購入時に選べる内装カスタマイズをプロに相談して決めるのもありだ。ドアを開けるとフロウウィングが夜道に美しく映し出される(写真右下)。

